

・「他流試合」「要塞の地図」 || Kを強敵と見なす私

▼「理想と現実」

理想…道のためにはすべてを犠牲にすべきだということ。

現実…お嬢さんに恋をしていること。

←

「私」…恋に陥っているKは「道のためにはすべてを犠牲にする」という第一信条に反しているのでは？

〈Kの破綻に気づいた私〉

←

「ただ一打ちで彼を倒すことができる」

▼「精神的に向上心のない者はばかだ。」

・私はKと同じような口調で投げ返した。(さらにKのプライドを傷つける)

・「復讐よりも残酷な意味」を持つとは？

↓Kが言っていることとやっつけることの矛盾を婉曲的に知らせている。

↓「Kの前に横たわる恋の行く手を塞ごうとした」

▼「かえってそれを今までどおり積み重ねてゆかせようとしたのです。」

・「精神的に向上心…：…ばかだ。」という言葉でKの第一信条に反していること知らせた。

お嬢さんを諦めてもらうために私は極めて屈辱的な態度を取る。(「利己心の発現」)

▼「私にはKがその刹那に居直り強盗のごとく感ぜられたのです。」

・第一信条に反していたことを気づいたKは、どうせ道を外れしまったのならば、

お嬢さんへの恋を諦めるわけにはいかないと開き直ってしまうことを恐れる私。

↓私はKが「道」と「恋」どちらを取るのかわからなくなる。